



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

## オンライン コンポジウム開催!!

2021 年 11 月 13 日 (土) に ZOOM を用いたコンポジウム (コンサート×シンポジウム) を開催しました。

今回は N 委員の司会と樋口大祐委員長の挨拶で、コンポジウムが開演しました。

まず、今年 5 月に結成され、異なるルーツ国を持つ新進気鋭の 3 人組バンド「ego apartment」による Groovy で素晴らしいコンサートにより、場の緊張がほぐされると、次に立命館大学文芸部言語コミュニケーション学域教授である、清田淳子先生による基調講演が行われました。ここでは、外国をルーツとする子どもたち、とりわけ小・中学生の教育には、母国語と日本語を織り交ぜることが重要である、ということについてお話をして頂きました。

コンポジウムの幕間には、山本晃輔委員 (関西国際大学教員) と現奨学生である M さんに、演奏とお話をして頂きました。この時間では、M さんの才能を遺憾なく発揮した演奏と、M さんのように才能を活かし、これからの未来を切り開いていくためには、本奨学金のような取り組みが重要である、というお話を山本先生にして頂きました。

最後のプログラムとして、榎井縁委員 (大阪大学大学院人間科学研究科特任教授) と、外国ルーツの大学生である M さんと、元奨学生で現在大学生である D さんに登壇していただき、シンポジウムが行われました。残念ながら開催時間の都合により、質疑応答はできませんでしたが、興味深く、活発なディスカッションの場となりました。

今回のコンポジウムは、例年行われていたカンタービレコンサートが新型コロナウイルスの影響により行えず、その代替りとして、オンラインで行われたイベントでした。なれないオンラインでの開催の中、スタッフ含む約 80 名の方にお越しいただき、また大きなトラブルが発生することがなく閉演することができました。

今回も趣旨にご賛同をいただいた多くの方々にご協力・応援をしていただきました。素敵な演奏をして頂いた「ego apartment」の皆さま、貴重なお話を頂いた清田淳子教授と大学生の皆さま、また当日にご参加いただいた多くの皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。

(事務局スタッフ H.A.)

**定住外国人子ども奨学金募金にご協力をお願いします!**

今年度もイベント等への出展ができず、奨学金原資が不足しています。

2022年3月31日までにどうぞ宜しくお願いします。

## 奨学生からのメッセージ

### 〇さん(14期生)

#### 『桜が、春を待っている』

僕が紹介した本は「君の膵臓を食べたい」という青春物語です。なぜかという、この本は僕にすごく印象を残したからです。

この本は、僕が日本に来て初めて読んだ日本の小説です。初めの出会いは三年前、中学校の図書室の片隅に、その本の中国語訳と日本語オリジナルの両方を見つけました。最初は題名を見て、何かのこわい話だと思ったけど、一度読んだら全然違いました。。。

ある日、男の子が偶然、「共病文庫」という日記を拾った。それは同級生の桜良さんが「涙」で書いた秘密日記です。二人の出会いはいつものドラマみたいです。少女が膵臓不治の病気を患って、残りの時間は1年しかない、そして彼女は自分の状況を日記に書いていました。男の子が日記を拾ったことから二人の生活は交差していきます。

本の前半は、主に二人が一緒にいた時にしたことを述べている。残りの時間が少ないという事を知っているから、少女はいつも楽観的でまるで何事も彼女の輝かしい太陽を消し去ることができない様子だ。少年に出会って、一緒にデザート屋に行ったり、焼き肉屋でグリル膵臓を食べたり、一緒に旅をしたり、とても楽しい何日間を過ごした。最初は少年があまり気にしなくて、良心に逆らえずに病気の同級生の願いを断れず、少女に付き添って少女がやりたいことを全部やった。無意識のうちにこれが少年の記憶の中で一番良い思い出になりました。

でも、この本の終わりは非常に予想外のことが起きました。桜良は病気でなくなった訳ではなくて、ある殺人事件に巻き込まれ、犯人に殺された。若い命は急に終わりました。十日後、少年はようやく勇気を出して桜良の家を訪れた。桜良が残した遺書の中で、少年は二人がお互いに必要とされていたことを知った。彼らの選択のおかげで性格が全然違っている二人が意外なきっかけで出会って、付き合っているうちに相手も自分を変えたということに気づいた。心に蓄積してきた感情がやっと爆発した。

この結末はとても驚きました。でもよく考えていたら、なんとなく理解できた。現実はずっと残酷だが、桜良は引き下がらず、ずっと病魔と闘っていた。負けない楽観的な精神が私を深く感動させた。本の最後に少年の名前を書いてくれた。志賀春樹です。ああなるほど「桜がいつも、春を待っている」

### Ｙさん(14期生)

#### 『人はなぜ争いを行うのか』

人々が戦争をするのには、様々な理由があると思います。国と国の違い、宗教上の違いなどの団体的な違いの争いと資源の掠奪や地位の掠奪などの希少資源の強奪などが主な原因だと思います。このような色々な違いや貪欲な心によって戦争が繰り返されていると思います。

これを日常生活に起きることで例えてみると、自分が周囲より勉強やスポーツができないために生まれる違いによって、劣等感が生じて、それでより自分を高めようとするのではなく、自分よりできない、つまり弱者に暴力などの手段を使うことで内心の安定感を得ようとしています。

それかほしいものが手に入らないため、他人のものを手に入れようとするのもまたわかり、自分の欲望のため、他人を不幸にさせて、しかも自分は何もしていないかのような感じを周囲に出して、自分だけが良けれ

ばすべて良し、として、自分の貪欲な心をごまかそうとしているのです。

日常生活ですらこんなことで争いがあるのに、国レベルまで行くとさらにそうなるでしょう。

例えば A 国が他国の国土を征服できる兵器を持っているとして、これが周囲との違いを生み、他国より権力を持ち、優越感を持つようになります。この権力を保ち、他国にこの兵器を見せつけますが、その兵器についての資料は絶対に公表しないのです。万が一その兵器をつくれそうな国があれば、その国の経済などに圧力をかけて、できるだけつくらせないかその国と戦争をして、その国自体を壊すのです。これが違いによる戦争です。

もう一つの例えですが、例えば A 国の領土が小さく、資源も少ない、しかし B 国は領土が大きく、資源が多いため、貪欲な心のために A 国はかならず B 国を攻めることになるのです。

こうやって見ると戦争をする理由は様々ですが、主な原因など二つしかありません。違いと貪欲な心、これらは生まれながら持つものなので、どうしようもないことですが、いかに自分の欲望を抑えられるかということによって、自分周囲の争いが減り、一人一人がそうすると、戦争もだんだんと減るのではないかと私は強く思います。

## Mさん(14期生)

### 『人はなぜ争いを行うのか』

私はなぜ争いがおこるのかについて書こうと思います。まず、争いについてもたくさん種類があります。小さい喧嘩や大きな戦争などです。そこで、争いの定義について調べてみました。調べてみると、「自分の気持ちを通そうとして張り合うこと」「相手に勝とうとして競争すること」と、できました。

私には兄がいます。小さい頃は手が当たったり、自分の見たいテレビのチャンネルを取り合ったりで、すぐに喧嘩していました。年齢の低い時には、相手の事を考えるより前に、自分の気持ちが前に出てしまって、争いが起きてしまっていた気がします。でも、それは決して悪いことではないと思います。自分の気持ちを小さいことから表現していないと、歳を重ねていく内に、言いたいことを相手に伝えられないようになると思うからです。

でも、中学生や高校生になってからの、友達との喧嘩などの争いは少し違うと思います。高校生になると、自分の気持ちを表現することはある程度できると思います。それなのに争いが起こるのは、相手の気持ちをうまく理解できていないからだだと思います。「親しき中にも礼儀あり」というように、どれだけ仲が良い友達でも、相手の気持ちをきちんと理解しなければうまく付き合っていくことはできません。なので、私は言葉を発する前に、自分が今、相手の立場だったらと考えてから言うようにしています。そうすれば、相手を傷つけてしまう前に対応できるからです。

しかし、国と国との争いの戦争のように大きな規模になっていくと、相手の気持ちを考えてから発言することが難しくなってきます。戦争は定義の二つ目のように、相手国より自分達の国を優位に立たせ、相手国に勝とうとすることでおこります。そこで戦争のような争いをもう起こさないようにするには、過去の悲惨な出来事を未来に伝えていくことが一番重要だと思います。過去の出来事を知らなければ、戦争がどれだけ酷いものなのか、どんな影響を与えたかを知ることができず、また起こしてしまう可能性があるからです。

争いが起こるのは、様々な理由があります。その理由によって解決策を考えるのが一番大切だと思います。

## Oさん(13期生)

### 『ヴィクトール・フランクルの「夜と霧」を読んでほしい』

フランクは著名な精神科医であり、心理額の専門家である。「夜と霧」は第二次世界大戦中、ナチスにより強制収容所に入れられた時の体験と心について書かれており、最も胸が締めつけられた本である。この作品は収容所の悲惨さや戦争の恐ろしさを伝える事を目的として書かれたものというより、むしろ絶望の極致に追い込まれた人々の心に焦点がおかれたもので、収容所という受け入れ難い理不尽な環境の中で、人々がどのような心の変化をし、また何を心の支えとし、どんな考えをもって未来に希望を見出そうとしたのか克明に書かれている。収容された当初は、怖いとか苦しいなどの様々な感情の浮き沈みを体験するそうだが、それが長引くと何も感じなくなると書かれている。つまり自分が生きている事に対して無感動、無関心、無感覚になっていくというのだ。そして自分の仲間や家族が殴られ殺されていく様子に一切目を逸らさなくなるという。さらに収容所の世界において苦しんでいる人、病んでいる人、死につつある人、死んでいる人の存在は全く珍しくなく、むしろ当たり前すぎる光景である為、「人としての心が徐々に動かなくなる」と表現されている。フランクはこの「感情が動かなくなる状態」の事を「心を包む最も必要な鎧であった」と表現した。自分の肉体が「生命を維持する」という目的だけの機能になり心の機能がシャットダウンされ、「食べる、眠る」という原始的な欲求だけに支配されるというのだ。いつ精神が崩壊してもおかしくない極限状態の中「全て人生からの問いかけである」と説くフランクの思想は、私の理解には及ばないのだが、フランク曰く、「この考え方は、地獄の様な収容所生活において我々を絶望させない唯一の思想だった」と語っている。

1945 年 4 月、フランクは収容所から解放される。9 月には終戦を迎え、その後わずか 9 日間で「夜と霧」を書き上げ世界に衝撃を与えた。ナチスやホロコーストについて私自身はもっと学びたいと思っている。そして歴史から何を学ぶべきか改めて考えた上でより多くの事を学びたい。

## D さん(13 期生)

### 『私の生活に影響を与えた人』

私の考えや生活に影響を与えてくれた人は、SaucyDog の石原慎也さんです。石原慎也さんは人気バンドのヴォーカルとギターを担当していて、多くの楽曲の作詞作曲を手掛けています。唯一のオリジナルメンバーで、他のメンバーが脱退した後も、SaucyDog という名前を独りで守り続けてきた、熱いハートの持ち主です。そんな石原慎也さんに人に優しく接することの大切さを教わりました。

私の一番好きな曲は「週末グルミー」という曲で、その歌詞の中に“ああ大人になって、「ねえ。ありがとう」って伝えたい時に側に居ない”というフレーズがあります。それを聞いて今、自分の周りにいる人たちの大切さを改めて身に染みて感じ、日ごろからあたりまえに感謝を伝えられる人になりたいなと思いました。他にも「雀ノ欠伸」という曲の歌詞には“周りの表情や態度なんか一々気にせんでいいからマイペースでもっと自分なりの一歩で良いんだよ”というフレーズがあります。この言葉は「頑張り」だけではなく「無理をしないでね」というような思いやりも感じます。こういったように、石原慎也さんが作詞作曲されている曲には、石原さんの人柄の良さが伝わるのはもちろん、私たちにとっても人に優しくすることは大切なことなのだなど実感することができます。イライラしたり、空回りしたりしてしまうこともあるけど、マイペースに自分らしく進んでいくことも、私生活ではなかなか気づかないけれど石原慎也さんの曲で気づくことができるものが多くあります。私にとって SaucyDog は、自分が普段どれだけ周りの人に救われ、恵まれているか気づかせてくれる素敵なバンドです。心に悩みがあっても周りには支えてくれる人がたく

さんいるはずなので、普段から大切な人や何かをしてくれた人にはきちんと感謝の気持ちを伝えて、石原慎也さんのように人を大切に思える人になりたいです。

## M さん(13 期生)

### 『NFT について』

皆さんは、最近大流行している NFT というものをご存知だろうか。ツイッター上で初めて投稿されたツイートの NFT が、21 年 3 月 22 日に約 3 億 1500 万円で売却され話題を呼んだ。その他にもニューヨークタイムズ社の記事の NFT が約 6000 万円で売られる等、NFT の人気が非常に高まっている。大流行したが、知らない人もかなりいると思うので、NFT というものがどういうものなのか説明しておこうと思う。

NFT とは、仮想通貨の一つであり、Non-Fungible Token の略である。Non-Fungible とは、日本語で「代替不可能な」という意味になる。たとえば、Non Fungible なものの一例としてコンサートチケットが挙げられる。コンサートチケットにはチケット一つ一つにコンサートの開催日時、場所、座席位置、購入者の名前など独自の情報が含まれている。そのため、A さんが持っているチケットは B さんが持っているチケットとは異なる物なので、交換すると開催日時や座席位置などが変わってしまう。このような性質を持つコンサートチケットは同じ物として交換することはできないので、「代替不可能な」つまり、Non-Fungible なものと言うことができる。

逆に「代替可能な」ものとは何があるだろうか。代表的な例として、円などの通貨が挙げられる。例えば、A さんが持っている 100 円玉は B さんの 100 円玉と交換しても何も変わらない。よって、同じ物として交換することができ「代替可能な」つまり fungible なものと呼ぶことができる。つまり、NFT は、「唯一のアイテムの所有権を表すために使うことのできる仮想通貨ということである。

この NFT 市場は、2018 年から 2020 年にかけて 8 倍以上の規模になり、2021 年に入り成長がさらに加速した。また、4 月 1 日の時点で NFT の累計取引高は約 629 億円であり、その 4 割近い約 236 億円が過去 1 か月の取引となっている。では、なぜ NFT はこれほど注目されているのか。その背景には仮想通貨の人気が関係している。最近、Bitcoin の時価総額は 1 年前より 600%以上成長した。Bitcoin の次に人気の Ethereum も 750%成長した。このような流れによって、仮想通貨に隣接する分野が注目がされやすくなり、NFT もこのトレンドの中で大きく成長したと考えることができる。

では、そもそも NFT を買う人たちの目的とはなんだろうか。たしかに NFT を買わなくても、デジタルアートや売却されたツイートは Google で検索すれば見ることができる。しかし、オリジナルを所持する価値とインターネットでコピーを見る・ダウンロードする価値は違くと捉えられている。従来型の美術品で例えると、モナリザの絵画を所有する価値とインターネット上でモナリザを見て、スクリーンショットを撮って保存する価値は異なる。同様に、「アート作品の作者本人によって、オリジナルであることが証明されたファイルを所持すること」自体の価値は高いと考えられる。また、現在 NFT 市場が大変伸びていることもあり、より高い価格で NFT を転売して利益を得る目的で購入する人もいる。

ここまで、NFT について説明してきたが、僕はあまり NFT のことを良く思っていない。一般的な考え方であれば、それらは「絶対に儲かる」夢のような話だが、僕の考えは違う。これまでのところ、その分野で作る価値のあるものがあると僕に確信させるものは何もない。僕にとって価値のあるものとは、銀行口座にどれだけ入るかでなく、世の中に価値を提供するために何を実現すべきかということの意味する。もし、

金を稼ぐのが第一の目的だったなら、いまとは違う人間として、違う夢を追っていただろう。おそらく、アーティストという職業は夢見ていなかったはずだ。NFTは、アーティストがグローバル資本主義から少しばかり恩恵を受けるための手段であり、金融化のミニチュア版に過ぎないと思う。これのおかげでアーティストもまた、ちっぽけな資本家というものになってしまう。評価関係なしにお金が稼げてしまうのなら、アーティスト目線で見るともうこの世の中はあまり良くない方向に向かって行っているのではないかと僕は考える。

## Sさん(12期生)

### 『人間って不思議だな』

最近、私は人間の一生について考えます。人間は不思議だなと思っています。人間みんなが経験することを考えると、ますます不思議になってくるのです。

人は長生きするようになったので、生まれてから死ぬまで百年近くの時間があります。生まれたばかりの赤ちゃんは話せません。ただ泣くことしかできません。でも、泣くことが自分の意思を伝えるただ一つの手段です。だから一生懸命泣きます。

やがて小学校へ入学し、続いて中学校、高校、大学と何年も勉強し、いろいろなことを学びます。そして社会へ出て就職し、働くようになります。そうなる頃には、それぞれが自分の意見を持ち、それを他の人にうまく伝えることが求められます。それはとても難しいことですが、社会人として生きていくには、絶対に必要なことだと思います。

これが他の動物には無い、人間の素晴らしいところではないでしょうか。

私は来年高校四年生になります。高校最後の年です。高校には行きたくないと思いましたが、周りの人から「高校に行く方がいいよ」と言われて、高校に進学しました。朝はバイトで働き、夜は学校で勉強の毎日は、想像していた以上にしんどいです。

高校一、二年の時には大学のことは全く考えていませんでした。三年になってから、大学進学を考え始めました。合格するのは大変だと思いますが、がんばっています。志望校合格を目指して、一年間勉強に集中します。バイトに行き、学校へ行き、受験勉強です。今から一年が頑張る時だと思っています。

私も二十歳になりました。まだ二十年しか生きていませんが、十七~十八歳の時が一番楽しかったです。バイトを初めて、もらったお給料で遊んだり、物を買ったりが、自由にできるようになったからです。忙しい毎日で大変だったけれど、楽しかったです。

今、一年一年がすごく早く感じます。毎日楽しく暮らしたいと思います。今日は普通の日だったけれど、明日は何があるかわかりません。毎日を大切にしていきたいと考えています。

## Nさん(12期生)

### 『私の考えや生活に影響を与えた人物』

私の考え方や生活に影響を与えた人物は、マザー・テレサです。理由は、彼女の言葉、行った慈善活動の様子、そして彼女の人間性に感銘を受けたからです。

マザー・テレサを知ったきっかけは、私が小学生の頃に、彼女についての本を読んだ時でした。私はそ

の頃から歴史や偉人について描かれた漫画や本を読むことが好きで、たくさん読んでいくうちに、マザー・テレサについて知ることができました。彼女のことを知り、調べていくうちに、彼女の生い立ち、心に響く言葉、慈善活動の詳細など、様々なことを知り、だんだん彼女に対して心が惹かれていきました。知っていくうちに、私は彼女のような心優しい人になりたいと思うようになりました。

彼女の言葉の中で、特に影響を受けた言葉は、「愛の反対は憎しみではなく無関心」、「あなたは、あなたであればいい。」、のこの二つが印象深いです。この言葉を受けて、意識して日々を生活していくようにしています。

また、彼女の行った活動、人間性から影響を受けたことは、貧しい人々のために施設を建てたり、学校にいけないホームレスの子どもたちに無料授業を行ったりと、他人のために動くその優しさ、行動力がすごい人だと思ったことです。さらに、マザー・テレサは幼い頃に望んだ「修道女になり、インドで働きたい」という、将来の夢を叶えた人物でもあり、この夢を叶えるために、様々な努力、経験を経て、彼女の目標に辿り着いたのです。私も彼女のように、努力をたくさんして、自分の夢を叶えることができる人間になりたいと思いました。

今回の作文のテーマを書いていた際に、改めてマザー・テレサについて知ることができました。彼女について調べていく中で、また新しくエピソードや彼女の発した言葉などを知ることができたので、良い学びになったと思います。自分の人生において、これからも彼女のような人物になれるよう努力したいです。

## Rさん(12期生)

### 『三年間の高校生活』

時間は水みみたいな感じ、毎日毎日休息なしで流れます。早かった場合はあるし、遅かった場合もあります。だから自分がどうやって時間を分配するとかとても大切と思います。

三年前に、私は初めて日本へ来ました。新しい環境、新しい風俗と食事文化、私はいろいろなことに好奇心を持って、慣れる必要がありました。特に日本語を勉強する時、たくさん文法や単語を覚えなないといけないから、毎日一生懸命に勉強します。その時は時間が早く流れてほしいと思いました。早く高校に入学し、新しい知識を勉強したいと思いました。

そして、一年間の努力をして、行きたい高校に入りました。その高校生活の中に、一番印象深いことは大学入試のところでした。自分は外国語の勉強に興味があり、将来は国際関係の仕事をしたかったので、いろいろな外国語大学を調べました。自分の日本語力はまだ不十分だから、外国人特別入試がある大学を調べました。しかし、今年から日本全国の大学入試方法が大きく変わりました。一般入試とAO入試の時間と外国人特別試験の条件は、全部昨年と違いました。その上で、新しい外国人特別試験の入試条件が、自分にはあてはまりませんでした。だから私は日本の生徒たちと同じ試験を受けなければなりません。その時は、自分の失望とストレスがとても増えました。

でも、私は健康な状態に戻れるように努力しました。全力でAO入試のことを準備する。その一カ月の中で私は毎日自己推薦書、自己PR書、志望理由書と小論文の書き方を練習しました。何回も書き直して、最後には、完璧な成果を大学に提出しました。自分が努力と引き換えに大学からの合格通知書を受け取りました。本当にうれしかったです。

私の高校生活中でとても印象深いことでした。これは私の人生の道にとって大切な一部分だと思います。